

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101404		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	グループホームさくらの家 西ユニット		
所在地	〒020-0834 盛岡市永井19-37-5		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念  
 ①「自分らしさを大切にそれぞれの美しい花を咲かせられるさくらの家」  
 ②「入居者様・地域の皆様が集って頂ける活気のあるさくらの家」を大切に入居者様が「その人らしく」過ごせるよう、夢、希望を叶える支援に力を入れています。コロナ禍で外出自粛が余儀なくされる中、入居様の夢や希望を伺い、ホーム内でも出来る事をスタッフで検討し行っています。地域活動への参加も限られていますが、地区の清掃活動に参加したり、広報誌などで地域への情報発信を継続。広報誌への反響も多く寄付の申し出や、散歩中の利用者への理解ある対応を頂いています。また、当法人は病院が母体にあり、主治医、看護師、薬剤師、歯科医など多職種で連携し、入居者様の体調管理を行い速やかに対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR岩手飯岡駅から徒歩10分圏内の閑静な住宅街にあって、盛岡医療生活協同組合が運営する2ユニットの事業所である。2階部分には同法人が受託運営する地域包括支援センターが入居している。母体である病院には在宅診療科があり、24時間365日の医療対応は、入居者や家族の安心につながっている。コロナ禍で外出制限や自粛が多い中、事業所の運営方針に掲げる「その人らしく、過ごせる」を具体化するため、「夢、希望叶えるプロジェクト」による馴染みの場所の訪問や誕生会の外食など、入居者の夢や希望を実現する取り組みは高く評価される。法人のスケールメリットを活かした運営に加え、eラーニングによる研修会の実施や職員個別の目標を定め取り組みなどの人材育成にも力を入れ、業務提案も多くその具体化に向けた態勢もできている。職員の定着率も高い。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホール、休憩室への掲示と、業務日誌やスタッフ会議資料へ記載し意識するように努めている。	法人理念に基づく事業所運営理念は、「桜のように入居者全員にスポットが当てられるよう」「地域に密着した運営」を心掛け、地域の方々に集ってほしいとの思いから定められたものである。スタッフ会議では、理念に照らした支援の振り返りを行っており、理念の見直しが必要との声は出ていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	さくらの家祭りで永井小学校との交流を企画していたが、コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となってしまった。 広報誌を年に4回作成し回覧版に入れて頂いている。包括支援センター主催の「注文を間違えるカフェ」にも参加し高校生と一緒に、認知症当事者としてカフェで活躍した。	町内会に加入し、年4回のホームの活動を回覧板を活用し発信している。コロナ禍前は近隣の小学校の運動会見学や神社のお祭りなどへ参加していたが現在は休止しており、コロナ感染症の動向の変化を見て、再開することとしている。今でも近所の方が古新聞や布切れを届けに来てくれて、活用させていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域清掃や資源回収の参加、広報誌でのさくらの家の情報発信を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面開催となったがご意見を頂いている。文章だけでなく、行事の写真を見て頂く事で日々の様子がわかるように努めた。	委員は、地域包括支援センター職員、児童センター館長、民生委員、家族代表、利用者で構成されている。運営状況、行事などについて、コロナ禍のため書面開催の形で行っている。ヒヤリ・ハットの報告に関し、日常の小さなことまで記録に残し職員間で共有し、支援に役立てていることに対し評価する感想を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者がおり、生活福祉課ケースワーカーに相談や情報共有を図っている。後見人の相談があった際は2階に地域包括センターの事務所があり一緒に取り組んだ。盛岡市から届くメールなどで情報入手し、各種届出などは可能な限り直接出向くようにしている。	市の介護福祉課、生活福祉課とは直接出向いたり、電話、メールで報告などのやり取りをしている。長寿社会課とは運営規定関係、制度改正に関する情報などで連絡を取り合い、連携を密にして良好な関係にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束禁止に取り組んでおり、身体拘束防止の学習会をしてベッド柵やセンサーマットの適切な使い方などスタッフで共有している。ユニット入り口や玄関は施錠せず、利用者様が自由に入出入り出来る様にしている。スピーチロック等1人1人が振り返り意識するように努めている。	法人全体で3か月毎に、各事業所の身体拘束防止委員、虐待防止委員が出席して身体拘束防止委員会を開き、身体拘束をしないケアの周知徹底を確認している。内容は各事業所に持ち帰り、スタッフ会議で確認し、日々の介護に活かすよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	年間計画に虐待防止について学習会を取り入れている。組織として虐待防止に努め委員会を開催している。自分達のケアに対し日々の振り返りを行い、不適切ケアになっていないか意識を共有、マニュアルの整備をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用している入居者様もおり、訪問時にタブレット面会をしたり、スタッフとも情報交換をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、わかりやすい言葉で説明する様に心がけている。料金改定など書類の取り交わし等がある際は、なるべく直接お会いして説明するお時間を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に4回広報誌を発行。ご家族様へは毎月日々のご様子を伝えるお手紙と共に、写真をお送りし喜ばれている。ご家族様へ連絡した際はご意見やご要望を伺ってケアに活かしたり、法人の利用者アンケートを実施し評価をスタッフ会議で共有している。	毎年、法人内で独自の家族アンケートを行っており、家族の思いや意見をくみ取るようにしている。その結果を職員が共有し支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議、2月2回のユニット会議を開催し、参加できないスタッフからも意見を聞き取りしている。職場目標や総括も各自振り返りを行い、意見を反映し作成している。	毎月のスタッフ会議、2か月毎のユニット会議を通じて、業務改善に対する意見・要望を聞いている。最近では、職員の提案により、入居者の介護度の変化に応じた勤務体制の中での役割分担の見直しを行っている。また、管理者による目標管理面接を、年度当初に行いその進捗を確認する面接を上期、下期にわけ実施している。	

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理の徹底や、労働環境について議題にあげ、スタッフの心と体が健康で働き続ける様に環境を整えている。資格取得や個々にあった研修参加へのサポートをすすめ、リーダクラス研修会に2名参加できた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署内ではeラーニング、法人では通信教育に取り組みスキルアップに繋げている。新卒や中途採用者にはエルダー制度を導入し職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各種委員会や部会などに参加し、同業者との情報交換を行っている。法人で一斉に集まる学習会が難しくなった為、ズーム等を活用し、一律に受けられるように取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やさくらで生活する中で、出来るだけ本人に要望を伺いケアプランに反映している。傾聴した要望等はスタッフに周知し、日々のケアに活かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様から要望や不安点を傾聴している。入居者様のご様子に変化があった際は速やかに連絡し、状態を共有出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お申込み時や契約時にお話を伺い必要な支援を提供出来る様に努めている。入居後もご本人やご家族が困り事を相談出来る様にケアプランにも取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や洗濯たたみ、食事の盛り付けや食器拭き等、ご自身で出来る事は行って頂き、ホーム内でも役割を持って生活して頂いている。		

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や写真等で様子をお伝えし、お会いできるご家族様には動画をお見せしたり、意思表示が難しい方でも、窓越しにお顔をお見せし喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からプレゼントや手紙が届いた際はご本人からお礼の電話が出来る様にお声掛けしたり、その様子をお写真にしてお送りしている。	ホームの運営理念に掲げる「個人の想いで暮らせる」を実践する一環として、夢叶えるプロジェクト活動に取り組んでいる。「入居前に働いていた職場はどうなっているのかな」の利用者の声に応え、遠方のスーパーではあったが訪問し、職場の人たちと交流することができた例もある。	コロナ禍で様々な制約がある中において、利用者の声に応えた大きな意味のある取り組みです。これに引き続くスタッフの奮闘に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、会話出来る様にしています。言葉や感情がうまく表現できない方にはスタッフが間に入り、入居者様同士の関係性を大切にお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになったり、新しい環境へ行かれた後等も、必要に応じ傾聴、相談に乗り継続的に関係性を保った。アルバムをお送りし「こんな表情をして生活していたなんて幸せだったと思います」とお言葉をいただいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中でご本人のつぶやきを聞き、思いが反映できる様に取り組んだ。表現が難しい方にはご家族様から情報提供いただき、ケアや企画立案に活かしている。	生活歴の把握に加え、何気ない、発語や表情の変化による思いや意向を感じ取り、職員間で共有し日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、以前利用していた事業所の方への聞き取りを行い、情報を共有している。ご自宅での愛用品などを居室に持ち込むなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	発した言葉や表情等、日々の様子を記録している。訪問看護師や主治医とも情報交換しながら状態把握に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファレンスの際に見直しを行い、ご家族様にも状況をお伝えしながらプランへ反映している。主治医や訪問看護師にも身体状況を確認して頂き、プラン作成に生かしている。	事業所独自の日常ケアチェック表に基づき、毎月カンファレンスを行い、新規入所者は1ヵ月後、3ヵ月後、6ヵ月後を見直しを行う基本としているが、状況の変化に応じて対応している。見直しに際しては、主治医や訪問看護師の意見も参考にモニタリングを行い、計画作成担当者が作成し、利用者、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って日々の生活記録や注意して欲しい事などを記入し、情報共有を図っている。カンファの時間を活用し、入居者様の変化に応じてプラン見直し等に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関りの中から得られる情報を共有しニーズに対応できる様に支援している。アルコールの提供や口当たりの良い食品の提供、お誕生日にリクエストに答える等工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より、新聞紙やウエスの寄付を頂いた。スタッフと一緒に、資源回収に出す段ボールをまとめたりした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にどんな医療体制が望ましいか確認している。現在は協力医と契約している方と、入居前からかかっていた主治医に通われている方がいる。必要時皮膚科や歯科、精神科等の専門医への受診もスムーズに出来る様に心がけている。	入居前から継続しているかかりつけ医には1名、月2回の訪問診療の利用は16名で、月4回訪れる看護師や毎月の訪問歯科も利用している。眼科などの専門医は家族同行を基本としているが、やむを得ない場合には、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に連携ノートを記入し日々の関りの中での気づきや変化を共有し、相談している。24時間連絡体制が出来ており、緊急の相談にも応じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は相談員と連絡を取り、退院に向けての支援を行っている。退院時、薬コントロールや食事制限のある方には、主治医や薬剤師、管理栄養士と情報共有を図り、スタッフ間でも周知をしている。退院が難しいと判断された方には、新しい行先の提案を行い、継続的に関係を持った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りケアについて指針を作成し、契約時や状態変化時に説明をしている。体調が悪化した方にはご家族様と面談し、現状を説明しご本人やご家族のお気持ちを聞きながら、今後の方針を決めスタッフに周知した。	重度化や看取りについての指針を作成しており、入居時とその後状態に変化があった際に改めて説明し、家族の意向に沿って支援している。必要に応じ協力医から説明を受けることもできる。昨年度は、1名を家族、スタッフ、協力医のチームで看取った。看取り後のカンファレンスで振り返り、スタッフで共有している。大半の職員は、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故対応マニュアルを作成している。Eラーニングにて緊急時の学習を行い、スタッフで共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、火災、地震を想定し避難訓練を実施している。以前は地域の方にも参加して頂いていたが、今年度はコロナの影響で見合わせている。消防署の派遣が難しく、消防設備会社立ち合いのもと、本格的な訓練を実施出来た。	避難訓練は年間5回計画し、3月に水害、5月に日中の地震想定、9月は夜間の地震想定、12月は夜間の地震想定を計画している。その他、消防設備会社の立ち合いにより、防災機器の使用方法や消火器の取り扱いの訓練を行っている。以前は町内会も参加して行っていたが、コロナ禍で見合わせている。	感染症対策の動向に注意しながら、運営推進会議で「地域の自主防災」に関する話し合いを行い、一日も早い町内会の協力を得た避難誘導ができる体制を再構築されることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや表情など非言語を意識しお声かけをしている。申し送りの際は利用者様の名前が聞こえない様に、お手洗いの誘いは他者に聞こえない様に配慮している。	全職員を対象とした、eラーニングによるプライバシー保護の研修会を行い、プライバシーの尊重とは何かやその留意点について改めて学習している。具体的な支援の場面では、本人のことや家族のことは、他の入居者の前では言わない、利用者が触れてほしくないことは言わない、表情の変化に留意し話をするようになどに配慮している。	
----	------	--	---	---	--

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類や、飲み物などスタッフ側の一方通行な声掛けでなく、ご本人の思いを傾聴しながら自己決定できる様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容を工夫しながら1人1人の生活リズムを大切に、ご本人の希望をうかがいながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好きな服を選んでいただいたり、整容のお声掛けをしている。感染状況を確認しながら訪問理容を利用し、「サッパリした」と笑顔がみられた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	さくらにいても季節を感じて頂ける様に、旬の素材を提供したり、手作りおやつを提供した。お誕生日のお祝いにはご本人が好きな物等なるべくリクエストに応えられる様に対応した。男性女性問わず、一緒にキッチンに立って食材切りや盛り付けを行った。	献立は、法人の管理栄養士が作成したものを基本とし、アレンジして使用している。食材の発注は事業所で行い、調理は当番制の職員が行い希望する入居者が特性に応じ調理、配膳、盛り付けなどを手伝っている。四季を感じられる食事をめざし、旬のものを提供するようにしている。主治医の了解を得られれば、アルコールも可能としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事と水分量をチェックしている。その方の状況に合わせ、食べやすい硬さや大きさにしたり、お味噌汁やお茶にトロミをつけ対応した。水分がうまく取れない方には、味に変化をつけたり、ゼリーでの提供を試みて摂取量に偏りが出ない様に意識している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは歯ブラシやスポンジ、歯間ブラシを活用しご本人の状態に合わせて支援している。義歯の不具合が発生した際は、歯科医に相談する事もある。		



自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に全入居者様トイレで排泄されている。排泄チェック表を確認し、排泄間隔が長い方にお声掛けしたり、排泄物の性状を確認している。	排泄チェック表を活用し、全員トイレでの排泄を目標にしている。自立している人は3人。他の15人は、リハビリパンツやパットを使用している。排泄に要する時間は、一人一人異なるため、落ち着いて排泄ができるよう全体を見ながら声掛け誘導している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に効果が現れる様な食材を取り入れたり、水分補給を促している。便秘気味の方には訪問看護師や主治医に相談、指示を頂きながら苦痛なく排便出来る様に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調やお気持ちに合わせてお誘いしている。入浴を希望されない方には気分転換を図り、時間をおいたり、スタッフを変えてお声掛けする等工夫している。	基本は週2回の入浴としているが、体調により変更している。入浴介助の時間は利用者と職員が、ゆっくり話を出来る時間でもあり、昔の話などで懐かしんでいる。介護度の高い利用者には複数介助で支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを観たい方、お酒が飲みたい方等その方のリズムに合わせて入床いただいている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回薬剤師に配薬して頂いている。訪問時はご本人の体の状態や副作用について共有している。飲み込みが難しくなってきた場合は粉碎の工夫をしたり、生活に支障をきたす程の傾眠等がある場合は、処方内容の相談をし、適正量を内服出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や調理、食器拭き等スタッフと一緒にやって頂ける様に支援している。体を動かすのが好きな方はリズム体操、手芸が得意な方はボタン付け、手慣れた様子で野菜切等、その方の役割や楽しみを持っていただける様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で日常的な外出は出来ていないが、天気のいい日は外に花を見に行ったり、サンデッキで歌をうたったり、シャボン玉をして外気浴が出来る様にしている。	コロナ禍で制約がある中で、ミニドライブとして花見やひまわり畑の見学に短時間ではあるが出かけている。天気のいい日には、バルコニーで日光浴を楽しんでいる。運動不足の解消と夏祭りができなかった代替えとして、職員が企画したユニット対抗の運動会を開催した。入居者の応援合戦が始まるなど盛り上がりが見られた。小集団グループでの外出に加え、本人の希望による個別での外出も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が望まれている方に関しては、ご自分で現金を管理し日常的に確認されている。基本的には、ご本人が望まれた物等はご家族に確認し購入したり届けて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人にプレゼントやお手紙が届いた際は直接電話をお繋ぎしてお礼を伝えている。字の書ける方はメッセージカードを送るお手伝いを行い喜ばれた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に四季を感じて頂ける様な装飾を心がけている。天候に合わせ、照明や室温に留意し、食席の配置にも気を付け入居者様が心地よく安心して生活できる様にしている。	ホールは白色基調で高天井で広く開放感がある。冬季でもあり、ホールでくつろぐ時間が多く、今月はクリスマスの飾り付けやゲームで楽しんでいる。テレビでワールドカップを見たり、将棋を指している方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前やキッチンカウンター、サンデッキ付近のソファ等入居者様の状況に合わせ、お一人お一人が快適に過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や食器類等、ご家庭で使用していた馴染みの物をお持ち頂いたり、ご家族からのプレゼントや写真などを飾り不安にならず、居心地よく過ごせるように工夫している。	リクライニングベッド、クローゼット、収納棚、、エアコンが備え付けになっている。壁にはお気に入りの歌手のポスターを貼り、自分の家として、入居者の個々の好みを反映している。	

令和 4 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの他、杖や歩行器を使用して歩行される方が安全に移動できる様、椅子やテーブルを配置している。お手洗いや居室がわかる様に目印をつけて安全に移動出来る様にしている。		